

前列左端 桂子（坊守、当時小6）
後列左より3番目 大杉ナカ様

昭和45年に建てられた鐘堂の上部と土台に亀裂が見つかりました。上部の方は雪害によるものと思われます。が、土台の方は長年の劣化によるものです。さつそくりフォームプレイス社の岩崎氏に来て頂き、調査していただきました。建立した時の図面を見ながら、今後どのように修復工事を進めていけばいいのかということを役員と一緒に9月4日に協議致しました。

住職 井上陽雄

鐘堂修復について

はい
淨福寺です。

淨福寺 行發会徒門

☎ (025) 536-2532
FAX (025) 536-2674
✉ jofukuji@alpha.ocn.ne.jp

上部の方は、10月の気候のいい時期にする予定ですが、費用に関しては、雪害ということで、門徒会が、費用に関しては、これも保険のJA建更より工事費などは未定ですが、来年の3月以降の予定です。詳しいことは後日報告しますが、費用に関しては、これも保険のJA建更の積立を利用してなるべく皆様に負担のかからないようにしたいと思います。ただ、全体に老朽化が進んでおりますし、目に見えない釣鐘の支えの部分もこの機会に調査をしたいと思いますので、状況によっては皆様にご負担をお願いするかもしれません。

鐘堂の図面によれば、当初土台には砂利を敷き詰める予定でした。何故、砂利なのかというと、梵鐘を打つたびに振動が天井より四本の柱に伝わり、柱から地面に伝わることによって、中の砂利が徐々に沈んでいくと予想され、沈んだ場合には、そこに砂利を補強すればいいと考えたのではないかということです。

しかし、実際は、その砂利の上にコンクリートを流しました。そして、やはり梵鐘からの振動により徐々に砂利が沈んでいき、コンクリートとの間に隙間ができ、それが原因でコンクリートの土台が割れてきたのではないかという報告を頂きました。その後、河端巖さんという方から梵鐘は、戦時中に供出しましたが、

た。

土台の方は、修復工事の日程や工事費などは未定ですが、来年の3月以降の予定です。詳しいことは後日報告しますが、費用に関しては、これも保険のJA建更の積立を利用してなるべく皆様に負担のかからないようにしたいと思います。ただ、全体に老朽化が進んでおりますし、目に見えない釣鐘の支えの部分もこの機会に調査をしたいと思いますので、状況によっては皆様にご負担をお願いするかもしれません。

鐘堂の図面によれば、当初土台には砂利を敷き詰める予定でした。何故、砂利なのかというと、梵鐘を打つたびに振動が天井より四本の柱に伝わり、柱から地面に伝わることによって、中の砂利が徐々に沈んでいくと予想され、沈んだ場合には、そこに砂利を補強すればいいと考えたのではないかということです。

しかし、実際は、その砂利の上にコンクリートを流しました。そして、やはり梵鐘からの振動により徐々に砂利が沈んでいき、コンクリートとの間に隙間ができ、それが原因でコンクリートの土台が割れてきたのではないかという報告を頂きました。どちらも淨福寺の宝物ですので、皆さんと大切に守っていただきたいと思います。

この鐘堂も本堂も、共にとても価値のあるものだとの報告を頂きました。どちらも淨福寺の宝物ですので、皆さんと大切に守っていただきたいと思います。

現在、梵鐘は毎日18時と大晦日の除夜に打っています。その他に集会鐘と言つて、法要の一時間前に「これから法要が勤まりますのでお寺に集合して下さい」という合図で10打打ちます。これは経典に書かれてある『響流十方』という言葉に由来しています。仏さまの声は、差別なく、すべての世界に届いているという意味です。



鐘堂落成慶讃法要 昭和45年4月19日
(右は大杉さん)

『親鸞聖人御絵伝』～絵で見るご生涯とご事績～その5

いよいよ今回は最終の第4幅目になります。

60歳を過ぎた聖人は、関東から帰洛の途中に箱根權現の神官の館にて歓待を受けられました。權現とは阿弥陀様の化身で、翁の夢に、權現がおっしゃるには「ただいまわれ尊敬をいたすべく客人(聖人)、この路を過ぎたまふべきことあり、かならず丁寧に饗應をまうくべし」と仰せられたと言われています。それだけ聖人は大切な人物だったということです。どこかで聞いたような話です。

やがて帰洛されて京都の五条西洞院でお住まいのとき、聖人を常陸国の平太郎という方が訪ねてきて、その平太郎が言うには、「職務で熊野神社に詣でなければならなくなり、このことが浄土真宗の教えに背くのではないか」と案じ、それを聖人のもとへ相談に来たのです。

聖人は「熊野本宮の權現は、衆生を本願海に招き入れようとして日本に現れた阿弥陀如来そのものです。ですから、お念佛の道を進んでいる者は、阿弥陀如来の誓願を信じて、普段とおりの姿で熊野權現をお参りしなさい」と仰せられました。

平太郎は、その聖人のお言葉に従い、熊野本宮には特別な作法や正装をせずに参詣しました。するとその夜の夢に、本宮主殿の証誠殿から正装した熊野權現が現れ、「おまえはなぜ精進潔斎せずに参詣したのか」と問われたそうです。そこに聖人が現れ「この者は私の教えによって念佛するものです」と答えられました。すると權現は、敬服してそれ以上何も述べることはなかったということです。

また、この熊野權現が平太郎に「他の者たちは、自分勝手なことばかりを言うので困っていたところ、私もお前のお念佛に救われた」と仰せられたそうです。平太郎は、帰りに聖人のところによってこの話をすると、聖人は「そういうことです」とだけ仰せられたという不思議な出来事が描かれています。

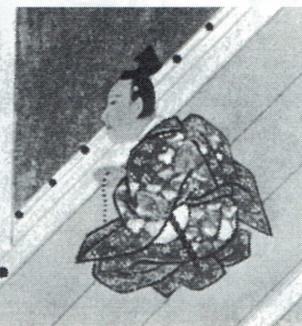
この平太郎は熱心な門弟で、田植えをしている農民達に「お寺でお講があるから行きましょう」と誘ったときに、農民が「田植えをしないと食べていけなくなるから行かない」と答えると、それに対して「食べても人は死ぬぞ」と言ったそうです。

聖人は弘長2(1263)年1月16日(太陽暦)にお念佛を申されるなか90歳でご往生されました。聖人は、「いよいよ、この命も尽きた。安養淨土に還帰するといつても、寄せては返す波のように親鸞もすぐに戻ってくる。だから仏法を一人聞いて喜ぶときは二人と思え、二人で聞いて喜ぶときは三人と思え。その一人が親鸞である」とおっしゃいました。また、「私が死んだら賀茂川に捨てて魚に与えよ」とも言われましたが、お弟子たちは、ご遺体を、東山鳥辺野の延仁寺で荼毘に付し、ご遺骨を納めるための廟堂を建てて、そこに御影像が安置されました。それが今の大谷本廟です。

その後、聖人がご在世のときよりもますます浄土真宗のみ教えが盛んになり、門弟らが伝道したおかげにより、そのみ教えが全国に広がり、報謝の誠を尽くそうと、たくさんの門信徒が本願寺や廟所に参拝するようになりました。



親鸞聖人



平太郎



荼毘の図



ご往生の図



大谷廟堂の図

右に邊り廟堂が建立される。
左に邊りはもうき持ち、
が持かれている。

覺如上人

(3) 2021(令和3)年9月23日発行



耐震工事となると、その前に基本設計や実施設計が必要となり、その費用は合計60万円ほどかかるそうです。実施設計には国から半額の補助が出るのですが、耐震工事には国からの補助はないとのことです。そうなれば大変な経費がかかりますし、加えて外観が変わることもあり、とても心配しておりました。

ですが、調査結果によれば、すべてが基準をクリアしており、しかも基準よりかなり高い数値で、耐震工事をする必要がないとのご報告を頂きました。飯田氏は「昭和2年での鉄筋の建物としてはとてもすばらしいです」と言つて下さいましたし、「おそらく一つひとつのが工程に時間と人力をかけて造られたものでしよう」とのことでした。また、「当時は足場もない時代でしたので、大変な工事だったと思います」とも言われました。

本当に自慢できる立派な本堂だと嬉しく思いました。それだけ、当時の人たちから大切に思われていたのだと思います。その思いに報いることができるよう、今後もしっかりと寺院活動をしていきたいと思います。

耐震工事となると、その前に基本設計や実施設計が必要となり、その費用は合計60万円ほどかかるそうです。実施設計には国から半額の補助が出るのですが、耐震工事には国からの補助はないとのことです。そうなれば大変な経費がかかりますし、加えて外観が変わることもあり、とても心配しておりました。

本堂耐震診断結果の報告について

浄福寺の本堂が国の有形文化財に登録されました。今後のことを考えて千建築構造設計室の飯田巳千男氏より耐震調査をしていたいただきました。

-第24回 浄福寺公開講座のご案内-

この度の公開講座のご講師は、上越にお住いの郷堀ヨゼフさんです。ヨゼフさんは、1979年チェコスロバキア（現在はチェコ共和国）生まれで、ご縁があって上越教育大学の専修研修員となり、現在は淑徳大学の教授をされています。専門は人類学ですが、医療・看護・福祉さらには看取りや終末期についても研究されておられる方です。ヨゼフさんは「日本の文化が好きだ」とおっしゃいます。日本人の私たちが忘れている大事なことを教えていただけると思います。当日は例年通りチャリティーバザーもおこないます。



郷堀ヨゼフ先生

日 時 10月17日(日) 14時～16時

会 場 浄福寺本堂

テ マ 「私が日本にすむ理由～生者と死者とのつながりを語る」

参 加 費 無料

◎マスクをして来て下さい。こちらでは検温・手指消毒・換気など致します。

日 時 10月30日(土) 午後1:30～4:00
会場：国府別院10月31日(日) 午前9:00～12:00
会場：恵信尼さま会館

ただ、感染者の状況によりもう少し緩和されるかもしれませんので、参拝を希望される方は予め申し出て下さい。また、今回の法要の実行委員長は私ですので、参拝の方がいない場合は、こちらからお声掛けする場合があります。その時はよろしくお願いします。

左記の日程で開催されます。しかしながら、新型コロナウイルス感染が拡大しているために、本願寺御門主をお招きしての記念に残る大法要は中止となり、縮小して開催されることになりました。門信徒の皆様のご懇意によつてきれいに整備された別院をご覧頂いて、大遠忌法要に参拝して頂こうと思つていたので、とても残念です。限られた人数での開催になつてしましました。

國府別院主催の
「親鸞聖人750回大遠忌法要
及び恵信尼様750回忌法要」
について

第9回

『チャリティーコンサートin淨福寺』のご案内



日 時	11月14日(日) 13時30分開場 14時開演
会場	浄福寺本堂
出演者	クレア、楢井沙弥・太田綾希、 ピアス、マリキータ、古田義明
曲目	栄冠は君に輝く、恋の季節、 卒業写真、糸他

今年も皆様に元気と希望をお届けしたいと思い、「チャリティーコンサート」を開催致します。会場ではマスクと消毒液を用意し、検温をさせていただきますし、座席の間隔を取り、窓を開けて十分な換気をしながら三密にならないように留意して開催致しますので、どうぞご来場下さいます。

参加費は無料ですが、募金箱を設置して「世界の子供たちにワクチンを 日本国員会」に寄付をしたいと思いますので、皆様からのご協力をよろしくお願い致し

期 費 持 ち	日 用 物	令和3年11月24日(水)～25日(木) 15,000円程度の予定
		24日の昼食 お念珠 着替え 洗面道具 保険証 常備薬 マスクなど
集 合 場 所		24日柿崎地区公民館前10時出発 帰りは25日柿崎着16時半頃 妙高市除戸の願生寺様参拝、 きれいに整備された国府別院参拝ほか
宿 泊 場 所 申込み切		赤倉ホテル(TEL 0255-87-2001) 10月31日 定員 20名

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年の有縁講も縮小して開催されます。それでも、赤倉ホテルでは『ご法話で心の垢を流し、温泉で身体の垢を洗う』というスローガンのもと、共に楽しいひと時を過ごしてほしいとさまざまな対策を考えて下さっています。この有縁講が今日まで続いているのも、赤倉ホテルのご尽力と皆様のご協力があつてのことですので、今年もぜひ参加したいと思っています。どうぞお誘いあわせてご参加下さい。

前坊守の武子は、今年の10月26日で91歳になります。2度の脳梗塞を経て要介護5と認定されて車椅子の生活となり、一緒に生活するのが困難になりました。前坊守は、浄福寺のために本当によく頑張った人だと思います。とても感謝しております。今は、ガラス越しではありますが、顔を見ながら面会しておしゃべりできることが楽しみです。

また、もう一つ嬉しい報告があります。12年間一緒に生活しておりました犬(シェルティーー名前はショコラ)が昨年の10月16日に亡くなりました。この度、8月18日に新しく子犬を迎えるました。同じシェルティーーの女の子で名前を琥珀(琥珀)といいます。どうぞよろしくお願いします。



今後共、皆様方からの本誌へのご要望・ご意見、そしてご投稿をお気軽に寄せ下さいます。よろしくお願いします。

編集 集大寺報編集委員会

印刷(株)小田

「第63回有縁講」のご案内

前坊守の近況報告と
新しい家族(子犬)の紹介

